

## TS2000ユーザーコマンド説明

ユーザーコマンド参考例 (TS2000\_\_t c . t x t)

PS;MD<05+2, 1=MD>

MD6<05>

PC<05+2, 3=PC>

PC005<05>

IF<05+5, 5=IF>

TX<05>

RM<05+3, 4=RM1>

RX<05>

PC<05>

MD<05>

180, 30, 2

実機での確認がありませんのですべてコマンドマニュアルでの推測設定です。

実機でご確認、「TS2000\_\_t c . t x t」の修正をお願いします。

<内容の詳細>

1 : 現在モードの読出し

PS;MD<05+2, 1=MD>

- ・ ・ 送信[MD], 0.5秒待機, インデックス2から1文字記憶, 受信先頭文字[MD] (他の返信は無視)

最初のPSはリグが受信ポートのゴミ等でコマンドを正常に受信できない場合があるため、ダミーで送信しています。

MD	モードの設定、読み出し										パラメーター P1 0:未使用 1:LSB 2:USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8:未使用 9: FSK-R
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	M	D	P1	;							
Read	M	D	;								
Answer	M	D	P1	;							

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

2 : チューニングモード設定

MD6<05>

- ・ ・ 送信[MD6], 0.5秒待機 (返信は無視)

MD	モードの設定、読み出し										パラメーター P1 0:未使用 1:LSB 2:USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8:未使用 9: FSK-R
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	M	D	P1	;							
Read	M	D	;								
Answer	M	D	P1	;							

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

3 : チューニングモードにおける現在の出力読出し

PC<05+2, 3=PC>

- ・ ・ 送信 [PC], 0.5秒待機, インデックス2から3文字記憶, 受信先頭文字 [PC] (他の返信は無視)

PC	送信出力の設定、読み出し										パラメーター P1 100Wタイプ 005~100, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード以外) 005~025, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード) 005~050, 1ステップ (430MHz帯のAMモード以外) 005~013, 1ステップ (430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定) 50Wタイプ 005~050, 1ステップ (HF~430MHz帯のAMモード以外) AMモードは100Wタイプと同じです。 20Wタイプ 001~010, 1ステップ (HF帯のAMモード以外) 001~020, 1ステップ (50~430MHz帯のAMモード以外) 001~005, 1ステップ (HF帯~430MHz帯のAMモード) 1200MHz帯 (全タイプ共通) 001~010, 1ステップ (AMモード以外) 001~003, 1ステップ (AMモードは003で2.5W設定) 144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。	
	Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
		P	C	P1	P1	P1	;					
		P	C	;								
		P	C	P1	P1	P1	;					

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

4 : チューニング出力設定

PC005<05>

- ・ ・ 送信 [PC005], 0.5秒待機 (返信は無視)

PC	送信出力の設定、読み出し										パラメーター P1 100Wタイプ 005~100, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード以外) 005~025, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード) 005~050, 1ステップ (430MHz帯のAMモード以外) 005~013, 1ステップ (430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定) 50Wタイプ 005~050, 1ステップ (HF~430MHz帯のAMモード以外) AMモードは100Wタイプと同じです。 20Wタイプ 001~010, 1ステップ (HF帯のAMモード以外) 001~020, 1ステップ (50~430MHz帯のAMモード以外) 001~005, 1ステップ (HF帯~430MHz帯のAMモード) 1200MHz帯 (全タイプ共通) 001~010, 1ステップ (AMモード以外) 001~003, 1ステップ (AMモードは003で2.5W設定) 144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。	
	Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
		P	C	P1	P1	P1	;					
		P	C	;								
		P	C	P1	P1	P1	;					

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

5 : 現在の周波数読出し

IF<05+5, 5=IF>

・ ・ 送信 [IF], 0.5秒待機, インデックス5から5文字記憶, 受信先頭文字 [IF] (他の返信は無視)

<b>IF</b>	セットの状態の読み出し										パラメーター P1 : 表示周波数を1kHzオーダーで11桁表示 例 : 00014175000=14.175MHz P2 : スペース P3 : RIT/XIT周波数と±差 1Hzオーダーで5桁表示+はスペースでも代用可。例 : +5320=5.32kHz P4 : 0=RIT OFF, 1=RIT ON P5 : 0=XIT OFF, 1=XIT ON P6, P7 : バンク指定、チャンネルNo.(MCコマンドパラメータ参照) P8 : 0=RX, 1=TX P9 : モード (MDコマンドパラメータ参照) P10 : ファンクション (FR/FIコマンドパラメータ参照) P11 : スキャン状態 (SCコマンドパラメータ参照) P12 : スプリット状態 (SPコマンドパラメータ参照) P13 : 0=OFF, 1=TONE, 2=CTCSS, 3=DCS P14 : 01~39TONE番号 (TNコマンドパラメータ参照) P15 : オフセット (OSコマンドパラメータ参照)
	Set										
Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	・ 操作バンド側の情報を返します。ただし、サブ・バンドのときは、サブ・バンドに無関係な情報は無視します。
	I	F	:								
Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	I	F	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1	
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	P1	P1	P1	P2	P2	P2	P2	P2	P3	P3	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	P3	P3	P3	P4	P5	P6	P7	P7	P8	P9	
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
	P10	P11	P12	P13	P14	P14	P15	:			

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

6 : 送信の開始

TX<05>

・ ・ 送信 [TX], 0.5秒待機 (返信は無視)

<b>RX/TX</b>	送受信状態の設定										パラメーター P1 0 : メイン・バンドの受信/送信 1 : サブ・バンドの受信/送信
	Set										
Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	R/T	X	:								
Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	R/T	X	P1	:							

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

7 : SWR 値の読出し・・・ (AH4 インターフェース時は非実行)

RM<05+3, 4=RM1>

・・・送信 [RM6], 0.5秒待機, インデックス3から3文字記憶, 受信先頭文字 [RM] (他の返信は無視)

<b>RM</b>	メーター選択、メーター値読み出し										パラメーター P1 メーター選択 0: 非選択 (設定不可) 1: SWR 2: COMP 3: ALC 4: 未使用 5: 未使用 6: 未使用	
Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	R	M	P1	;								
Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	R	M	;									
Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	P2 メーター値。メーター表示上のドット数を示します。 0000~0030	
	R	M	P1	P2	P2	P2	P2	;				

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

注：ここでの設定はリグ液晶表示のメーター種別設定で、読出しは「RM;」を送信する

と「RM1XXXX; RM2XXXX; RM3XXXX;」と3つ返信される (RM1XXXXがSWR値)

・・・推測です (リグがありませんので、おそらく480と同じと思われます)

8 : 受信に移行

RX<05>

・・・送信 [RX], 0.5秒待機 (返信は無視)

<b>RX/TX</b>	送受信状態の設定										パラメーター P1 0: メイン・バンドの受信/送信 1: サブ・バンドの受信/送信	
Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	R/T	X	;									
Read												
Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	R/T	X	P1	;								

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

9 : チューニングモード出力の復元

PC<05>

- ・ ・ 送信 [PC\$\$\$] (\$\$:③での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

<b>PC</b>	送信出力の設定、読み出し										パラメーター P1 100Wタイプ 005~100, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード以外) 005~025, 1ステップ (HF~144MHz帯のAMモード) 005~050, 1ステップ (430MHz帯のAMモード以外) 005~013, 1ステップ (430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定) 50Wタイプ 005~050, 1ステップ (HF~430MHz帯のAMモード以外) AMモードは100Wタイプと同じです。 20Wタイプ 001~010, 1ステップ (HF帯のAMモード以外) 001~020, 1ステップ (50~430MHz帯のAMモード以外) 001~005, 1ステップ (HF帯~430MHz帯のAMモード) 1200MHz帯 (全タイプ共通) 001~010, 1ステップ (AMモード以外) 001~003, 1ステップ (AMモードは003で2.5W設定) 144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。	
	Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
		P	C	P1	P1	P1	:					
		P	C	:								
		P	C	P1	P1	P1	:					

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

10 : モードの復元

MD<05>

- ・ ・ 送信 [MD\$] (\$:①での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

<b>MD</b>	モードの設定、読み出し										パラメーター P1 0: 未使用 1: LSB 2: USB 3: CW 4: FM 5: AM 6: FSK 7: CW-R 8: 未使用 9: FSK-R	
	Set	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Read	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
	Answer	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
		M	D	P1	:							
		M	D	:								
		M	D	P1	:							

(ts2000\_pc\_command\_j.pdfより抜粋)

\* : S W R 読出し時の完了検出パラメータ

180, 30, 2                    N, n、M

N : 読出し10回での値の総和がこの設定値以下になれば S W R が下がったと判断

n : 読出し10回での値の変化値の総和がこの設定値以下ならほぼ安定と判断

M : Y a e s u = 0、 I C O M = 1、 K e n w o o d = 2 を指定してください

N:180、n:30は例としての値です・・・実機調査・メーカー問合せで決定が必要です。

Nは大まかには S W R 値 2. 5 のリグ返信値×10を設定

nは1回目と2回目の変化値+2回目と3回目の変化値+・・・9回目と10回目の変化値として変化した値の総和を計算します。30設定の場合はこの変化が3程度のばらつきでほぼ安定したと判断します。

上記の設定で S W R が 2. 5 以下でほぼ安定すればチューニング O K と判断です。

・・・ T S 2 0 0 0 はフルスケールで30とされていますので15~20程度が S W R 2. 5 ?